

(小ネタ) ハイスクール
D×D 鬼に転生しました

ヒロアキ 1 4 1

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したもので
す。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を
超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

神様の手違いで死んだ少年は新たな力を得てハイスクールD×Dの世界に転生する

追記

タイトルを少し変えました

ノリで執筆したのでこの先更新無いです・・・多分

プロローグ

目

次

プロローグ

少年が目覚めるとそこは一面白一色の世界だつた。

「此処は…何処だ？」

「此処は現世と冥界の狭間、所謂あの世さ」

後ろから声が聞こえて来たので振り返つてみると黒髪の少し悪っぽい雰囲気を纏つた青年がいた

「自己紹介が遅れたが、私の名前はゼウス、よろしく」

「俺の名前は…あれ？名前が思い出せない…」

「それはそうさ、本来なら此処に来る魂は大体が前世の記憶を消してから此処に来るからね」

「なるほど、理解はした、…それにしても現世と冥界の狭間ってことは…俺は死んだと言う事か」

「ご察しの通り…と言いたい所なんだが…まず先にこれだけは言わせてほしい、すまない」

ゼウスの説明を簡単に言うと、こうなる

俺は本来ならこの年で死なず、天寿を全うし大往生する筈だった

だが天界の一部の上級神のバカ共が勝手に俺の人生の設計図を弄くりまわした挙げ句ビリビリに破いてしまった

そのせいで早死にしてしまった

そのバカ共は上級神資格の剥奪と天界からの永久追放処分となつた

そのお詫びも兼ねて俺を生前いた場所以外での転生の権利が発生した
「…と言う訳で、君には転生の権利が発生するんだがどうする?」

「少し質問があるんだが大丈夫か」

「ああ、良いよ」

「俺の死因は一体何だつたんだ?」

俺のその疑問にゼウスは少し思い出す素振りを見せてこう言つた

「君の死因は…交通事故さ、信号を無視して突っ込んで来たトラックにひかれたんだ
「…そうか…ところで俺の転生先は何処になるんだ?」

「君の転生先はハイスクールD×Dと言う世界さ、厳密に言えば、ハイスクールD×Dによく似た平行世界、と言つた所さ、ところで転生特典はどうするんだい?」

「転生特典? 何だそれは?」

「転生特典はまあ簡単に言えば神様からのお詫びの能力といった所かな、そうそうこの

転生特典は能力だけじゃなくて、外見にも使えるからよく考えてこの紙に書いて欲しい」

「ところで参考迄に聞きたいのだが、今迄の転生者達の特典は一体どんな感じだったんだ？」

「酷いものだつたよ、銀髪とかオツドアイとか……とくに無限の剣製を特典にした奴を見た時は転生させるのを止めようかと思つたくらいさ」

そう語つたゼウスの表情はうつろで死んだ魚のような目をしていた

「わかつた、わかつたから今から考えてくるから少し待つてくれよ」

「なるべく早く持つてきてくれよ」

数時間後

「転生特典は決まつたかい？」

「ああ」

「どれどれ……ワンピースのロロノア・ゾロとブルックの剣術と悪魔の実の能力、るろうに剣心の剣術全てとトリコの美食家四天王全員の技を希望、但し修行すればするほど上達するように…か、中々面白いものを選んだじやないか」

「そうか？ 自分的にはかなりのチートだと思うんだが…特に悪魔の実とか」
「この特典程度じゃ、チートとは言わないさ、では…」

ゼウスが指を鳴らすと目の前に虹色に輝くオーロラが現れた

「ここを潜れば君の第二の人生が始まる、最後に一言、君の第二の人生に幸多からん事を

……」

「あ、彼外見の転生特典決めないまま送り出しちやつた……まあこちらで勝手に決めればいいか」